

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E1121014	ピアノ (伴奏を含む。) (Piano)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	1	3	教育学部 平成31年 度以前入学生 用			氏名 田中 星治 E-mail tanaka@oita-u.ac.jp 内線 7618											
授業の概要	ソナチネ、ソナタ程度のピアノ曲を演奏を交え実技指導する。また、歌唱教材の表現のポイントを伴奏から見出す。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	ピアノを踏まえ、さらにピアノの技法を高めることができる。																
目標2	伴奏としてのピアノの役割を工夫し、表現力を高めることができる。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	歌唱伴奏の意義(1)伴奏技術について																
3	歌唱伴奏の意義(2)伴奏表現について																
4	伴奏の技法について(1)技術面について																
5	伴奏の技法について(2)表現について																
6	伴奏譜の表現上のポイントについて(1)読譜について																
7	伴奏譜の表現上のポイントについて(2)演奏面について																
8	歌詞の内容に沿った伴奏表現について(1)技術面について																
9	歌詞の内容に沿った伴奏表現について(2)表現について																
10	ピアノにおける伴奏のポイントについて(1)技術面について																
11	ピアノにおける伴奏のポイントについて(2)表現について																
12	伴奏におけるペダルの活用について(1)技術面について																
13	伴奏におけるペダルの活用について(2)表現について																
14	歌唱を引き立てるための伴奏の効果について																
15	実技試験に向けてのまとめ																
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	ピアノ演奏を通して、音楽表現に必要な演奏技術を身につける。さらには楽曲の表現の可能性を模索し、作品を通して受講者の主体的な演奏技法を引き出すことを目指す。				工夫 その 他の	ピアノ実技なので、個人指導、およびグループ指導を行い、学生とのディスカッションの中で、解釈の可能性を探る。										
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	与えられた課題を前もって準備する。ハノンや指のトレーニングのための教材を並行して活用する。(10h)															
	事後 学修	授業で行った内容を再確認し、事後の練習に生かす。(10h)															
教科書	中学校の歌唱教材、教育芸術社「中学校の音楽1～3」																
参考書	そのつど指定する。																
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	授業への取り組み	40%															
	期末試験	60%															
評価について	評価については、具体的な到達目標で掲げた内容に沿って、実技試験で評価する。到達目標に向けた準備の過程についても、評価の中に盛り込む。																
注意事項	毎日の練習の積み重ねが重要。																
備考																	
リンク																	
	URL																